

今日のトピック

豪州の金融政策は引き続き現状維持（2019年2月）

景気拡大が続き、豪ドルは底堅く推移しよう

ポイント1

市場予想の通り現状維持 政策金利を1.50%に据え置き

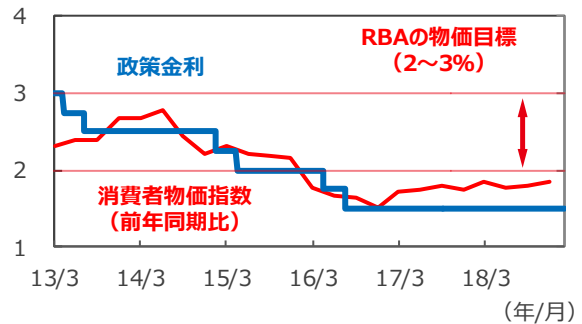
- 豪州準備銀行（RBA）は、2月5日に開催した金融政策決定会合で、事前の市場予想通り、政策金利を1.50%に据え置きました。

ポイント2

成長率予想を小幅下方修正 見通しの基本観は変わらず

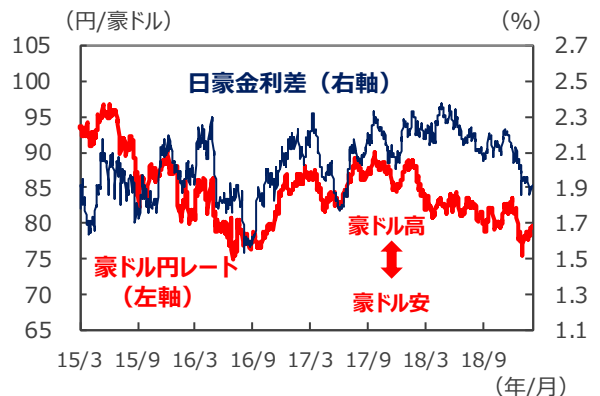
- 公表された声明文によれば、RBAは豪州経済の成長率が2019年は+3%程度となるものの、20年はそれを若干下回るとしました。前回予測値の+3.25%から小幅な下方修正となりましたが、民間設備投資および政府のインフラ投資の拡大に支えられ、引き続き堅調な成長が続くとの見通しに変更はありません。
- 物価については、従来予想よりも時間がかかるものの、「緩やかに改善する」との見方を維持しました。
- 中国をはじめ海外経済の先行きに不透明感が浮上してきたこと等を受け、声明文の内容も従来に比べ、やや慎重なものとなりましたが、以上の通りRBAの基本観に変化は見られません。当面、金融政策は現状維持が続くと予想されます。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年10-12月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2019年2月5日。
(出所) Bloomberg L.P.、Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年3月1日～2019年2月5日。
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

豪ドルは底堅く推移しよう

- 2月6日にはRBA総裁の講演が行われました。その内容は概ね声明文に沿ったものでしたが、経済、金利の見通しに対するリスクについては従来「上振れ」だったものが、「上振れと下振れで均衡」とコメントしました。これを受け、円や米ドルといった主要通貨に対して、豪ドルは軟調な動きになっています。
- 今後については、豪州の景気が堅調な拡大が続けると予想されること、豪州にとって重要な輸出相手国である米国と中国の間の貿易交渉に進展が期待されること等を踏まえると、今後、豪ドルの対円相場は底堅く推移すると見られます。

ここも チェック!

2019年1月31日 FRBは金融引き締めを終了を示唆（2019年1月）
2019年1月25日 豪ドル相場は底堅い展開へ（2019年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。